

令和2年1月31日

保護者様

アソカ幼稚園長 小林 淳一

令和元年度 アソカ幼稚園 「園評価」結果及び保護者感想報告

寒冷の候、日頃より本園教育にご支援・ご協力をいただきまして、感謝申し上げます。さて、令和元年度園評価・保護者アンケート感想のご提出ありがとうございます。つきましては、結果をご報告させていただきます。

★一部抜粋

1 対象者内容

対象者	人数	回答数	回答率	実施期間
教職員	18名	18名	100%	令和元年11月26日～ 12月2日
全保護者	園児数 105名 (世帯数101)	64名	64%	令和2年1月 8日～ 1月24日

1 教職員 自己評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E 評価できない

【I 教育目標・教育方針・教育課程・指導計画】

		A%	B%	C%	D%	E%
1	園の教育目標(いのちを大切にすることを子供たちのなかに生かそうとしている。	62	38	0	0	6
2	月・日教育計画案は、幼稚園要領、園の目標や方針をもとに作成している。	23	16	0	0	61

【Ⅱ 教育の内容・方法・教育環境】

1	勉強や遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	23	62	5	0	10
2	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育を行っている。	11	56	11	0	22
3	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	28	45	5	0	22
4	一日の生活がより豊かになるよう(手洗い、排泄、あいさつ、片付け、クツそろえ)の基本的な生活習慣を指導している。	34	50	5	0	11

【Ⅲ 教師の役割・資質向上】

1	一人ひとりを大切にされた教育を心がけている。	67	33	0	0	0
2	保護者に子供の様子を話したり、クラス通信などで知らせたりして連携をとっている。	27	56	5	0	12
3	研修会などに進んで参加したり、自ら学んだりして教師力を高める努力をしている。	23	45	16	5	11

【Ⅳ 運営管理】

1	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	50	50	0	0	0
2	個人情報等の管理は間違いのないように行っている。	62	33	0	0	5
3	他の職員と互いに認め合い、協力して仕事に取り組んでいる。	62	38	0	0	0

2 保護者評価

A 十分 B おおむね C ちょっと足りない D できていない E 評価できない

		A%	B%	C%	D%	E%
1	「いのち 共に生き共に育ちあう」という教育方針のもと、日々の教育が行われていると感じる。	71	28	1	0	0
2	一人一人を大切にした指導が行われている。	54	44	2	0	0
3	子どもの発達を考慮し、興味・関心に応じた保育が行われている。	61	36	3	0	0
4	クラスの友達や他学年とのふれあいなどを通して、豊かな人間関係を育てている。	72	27	0	1	0
5	園だよりやクラス通信などを通して、幼稚園の情報を、適切に伝えている。	81	17	2	0	0
6	園内や教室の環境・安全整備や美化に努めている。	76	22	2	0	0
7	居心地のよい預かり保育(クジラ組)が実施されている。	61	25	0	0	14
8	保育を参観する回数が適切である。	68	29	0	1	2
9	幼稚園(教職員)の保護者への対応は適切である。	71	27	1	0	1

3 保護者感想 ★一部抜粋

○年長組

・年長になってお友達とケンカするようになった。年少の頃には、想像も出来なかったことなので、成長したなあとと思った。しかし、言い方が強かったり、気が強くなり過ぎたりしてしまうことが心配している。自分の気持ちを言えることは大事だと思うが、今後どのように言えば、相手に上手に伝わるか、親子で勉強したいと思う

・くじら組にとっても助けられた。産後十分に関わってあげられず荒れていた長男を家庭のように温かく見守ってくださり、自由遊びに没頭出来たことで少しずつ落ち着いていくことが出来た様に思う。

・毎日、嫌がることをせず、にこにこ行ってくれた。くじら組も大好きな先生と遊べると楽しんでくれた。ただ、この当たり前で成長のない姿にいいものかと思っていた。とりあえず、お箸の持ち方。言っても言ってもフォークに持ち替えたり、食べないと言ってみたりでちっともやってくれない。しかし、ある日おばあちゃんちに預けたら、「ママには内緒だけど持っているんだ」と言っていたみたいだ。忙しいあまり知らないだけで、自分で着替える、ケンカしても謝る、たまに譲ることが出来る…。気付かなかったが少しずつ成長していた。

・毎日幼稚園に行くのが、楽しみな様子だった。それも、先生方の幼稚園での活動のおかげだと思っている。遠足、劇遊び発表会、運動会、おもちゃつきなど、色々なイベントがあり、その都度大変だったかと思う。おかげさまで子供は一つのイベントごとに成長していたように思う。

・先生方の一貫した教育方針に安心している。年少、年中、年長と先生が変わる度に最初は不安を感じるが、それぞれの年代に合った対応をしてくださっているのを感じ、安心して預けられることに有り難く思っている。くじら組では、ただ、預かるだけでなく、様々なプログラムを考えてくださっていることもとても有り難い。うちの子は3年間ずっと早くお迎えをすると帰りたくなくて怒ってしまうので、少々悲しくなるが、子供が幼稚園を大好き過ぎることが、当たり前ではないと感謝の気持ちでいっぱいだ。

・一つ一つのイベント等を見せていただき、年々とても成長を感じている。最近特に頑固で気の強い娘ながら、優しい心が出てきたなと感じることもよくある。昨年、娘のことをとてもかわいがってくれていたひいおばあちゃんが100才で他界した。娘は、おばあちゃんの家に行くと仏壇の前に手を合わせて、おばあちゃんに話しかけていた。こんな行動も園でいつも教えていただいている「命の大切さ、命のつながり、人として大切なこと」を学ばせていただいているおか

げだと思ふ。

・年長として、たくさんの体験をさせていただき感謝する。子供の性格などを理解し、気にかけていただけて、嬉しく思い安心して園に子供を預けられた。面談の際に、段々仲間に自分から入れるようになってきたこと、友達に教えてあげる時にも優しく教えてあげていることを帰宅して子供に「先生が褒めてくれたよ！！」と伝えた時の子供の嬉しそうな顔が今でも鮮明に浮かび、親として喜びを感じた。

・今年1年間幼稚園に行くのを一度も嫌がることなく「早く行きたい」「ママ、早く仕度終わらせて！」と言うようになった。面白い行事が沢山あること、優しい先生方がいることのおかげだと思ふ。

・年長になり、日々成長を感じるようになった。くじら組で、縦割り保育や友達仲間と協力しあえる時間がとても良かった。日々感謝しつつ、周りには、やさしく、ありがとう、ごめんと言える一年だった。年長になって門のところで「いってらっしゃい」とバイバイするようになり、後ろ姿がとっても頼もしくなったなど成長を感じた。行事が多くあっという間に一年が経ってしまった。遊びだけではなく劇の練習の毎日が続くが「今日は練習ばかりで疲れちゃった。」と言いながら家でまた練習していた。きっと我慢や大変と思うことがありながらも楽しさを見つけてやっているんだと思ふ。

・印象に残っている事は、雨の中のおまつりだ。悪天候でも何とか開催出来たのも、沢山のご協力があったこと。感謝だった。3階のゲームコーナーがまとまっていたのも、見やすかったのも、子供の姿よく見られたようだ。くじら組だけでなく縦割り保育が度々あることで下の子のお世話をしようという自主的な気持ちが強くなっていったように思ふ。園全体が「仲良し」に過ごせていたと感じられたことが嬉しく思った。

・運動会のオペレッタ、劇発表会のオペレッタ、劇遊び発表会の練習を朝から先生と子供たちが一生懸命している姿を送りの時に見かけ感動と成長を園生活最後の年に感じた。月のうさぎの練習も始まり、先生やコーラスの皆様、子供たちの頑張る姿がまた見られるようになり、本番が楽しみだ。「命の勉強」がどのシーンでも出来たアソカ幼稚園に、子供が3年間通えたことが良かった。

・年長になり突然？男の子が全開になった感じで、息子自身も元気溌刺としているのが楽しいみたいで、その姿を見て私も嬉しかった。イベントや日々の園生活を通して、心も体も大きく成長してくれたように思える。年少の頃、参加できなかった行事も、年中、年長と進むにつれて出来る様になって、行くのが嫌だと言っていた幼稚園に行くのが楽しくて、友達や先生方と活動するのが楽しくてしょうがないと言うまで変わって成長してくれたのが一年というか、この3年間で印象になる出来事だった。

・年長になったばかりの頃は、まだそんなに声も大きくなかった様な？いつの間にかこんなに大声を出せるようになったの？と最近よく思う。どんどん男の子ぽくなってパワフルに堂々としてきた。とても頼もしい。家では一番下なので、くじら組での異年齢交流が、すごく良いなと思う。自分より小さい子との関わりで、相手のことを思いあったり、手伝ったり、声をかけたり、色々な事がすぐ目の前にあると言うことが大切だなと感じる。この環境は素晴らしい。

・子供の成長について、目に見えてこの一年間で成長を感じ取れた。話すことが増えて、おしゃべりになった事やお友達の名前を覚えて「～君がこうなんだって」とか、そんなことを話してくれる本人は楽しそうだった。後は、くじら組で作ってくる工作が楽しみみたいで、いつも作ったものを得意気に見せてくれるのが日課になっている。

・先生がとてもよい。

・ずっとあこがれと楽しみな気持ちで待っていた月のうさぎの練習が始まってからは毎日生き生きと登園するようになった。練習のお話を毎日聞かせてくれるが、褒めるだけでなくアドバイスや時には、厳しい意見もあるようで何かを創り上げるといった経験が、これから小学生になるみんなにとっても大切な事なのだと感じている。

・アソカ幼稚園は、素晴らしい園だと私は思う。私は美智子先生のお話を聞くのが大好きだ。その機会が一回でも多いと嬉しいなあと個人的に思っている。

・娘に「小学校には行かないと行けないの。幼稚園のままじゃだめなのか」と何度も真剣な顔で聞かれた。息子も家でしみじみと言うことがある。娘の幼稚園生活を見て「幼稚園いいなー、幼稚園楽しかったなー」と。二人にとって幼稚園は、安心出来て毎日が楽しく、思い出すと戻りたくなる場所だ。

・年長になって何か変わったかな？と考えてみた。一人で靴が履けるようになった。ホタンが留められるようになった。お弁当の袋を結べられるようになった。下の子の面倒を見られるようになった。先生の話静静地に聞けるようになった…。数えたら切りがない。特に劇遊び発表会はとっても楽しみ、みんな元気に演じている姿をみたら、うちの子だけでなく、きく組の皆が成長したなと感じた。1年間を通して色々行事があるなか、先生たちが安全面などしっかりと管理して頂けるので、親としても安心して3年間通わせることが出来た。

・沢山のお友達と仲良く出来、毎日楽しそうだった。女子ならではのトラブルもあったが、平和な解決方法を見つけてうまくやる知恵もついた。難しかったなわとびも園庭で何度も練習したことで、今ではスイスイだ。出来なかった事をあきらめずやれる様になって帰ってくることも多く、驚かされた。

・きく組 1 年間では息子の大きな成長を感じることができた。風邪を引いた友達を心配したり、自分が楽しめる事を見つけるのが上手くなったり、外でもあい

さつをしっかりしていたり、沢山良い所が増えた。運動会で代表を自らやりたいと手を挙げたと聞いた時は耳を疑う程驚いた。運動会当日の立派な姿は涙が出るくらい嬉しかった。劇遊びもとても楽しそうに発表していて成長を感じた。

○年中組

- ・毎日楽しそうに幼稚園で過ごす、娘を見て安心してお任せ出来ている。長女の時も、私ではなかなか教えられない遊び(あやとり・折り紙等の昔遊び)をくじら組で、沢山覚えてきてくれるので、家で披露してくれる娘を見るのが楽しみだ。うめ組では、沢山の友人に恵まれ「〇〇ちゃんに教えてもらった！」とピアノを弾いたり、お笑い芸人のギャグを見せてくれたり…と刺激をもらっている。
- ・年少の頃は、あまり出てこなかったお友達の名前が年中さんになって、沢山出てくるようになった。色々あるようだが、楽しく幼稚園に通えているようだ。
- ・二年目の息子は、本人なりに少しずつ我慢出来ることが増えたり、「物の貸し借り」「譲り合い」なども、数多く感じる事ができた。息子は人一倍さみしがり屋な一面も、りさ先生は気にかけてくれて父母としては、とっても有り難く思う。
- ・劇遊び発表会で、セリフの多いおじいさん役を進んでやったことを担任から聞いた。本人はねずみ役を希望していたようだが、ねずみ役の希望者が多いため、おじいさん役を挑戦したとのことだった。当日セリフをきっちり覚え、みんなの前でセリフを言っていたことには、とても感心した。
- ・年中さんになって友達との接し方、遊び方が少しずつ上手になってきたなと感じている。特に嬉しく思うのは、毎日幼稚園に行くことが楽しいと言ってくれることだ。年長さんが月のうさぎの練習をやっていて、何かを感じているのか、自分がきく組になったときに、月のうさぎが、上手にできるか不安を話してくれた時は、今のことだけでなく、将来のことを考えているんだなと成長を感じた。
- ・年中さんになり、また一回り成長したなあと感じる。毎朝、涙を流して私とバイバイをしていた娘だが、秋頃から自然と泣かずにバイバイが出来る様になった。まだ教室までは一人では心細く行けない様だが、このことが娘の自信に繋がりと、頼もしくなったなあと嬉しく思う。家では、先生に教えていただいた歌やあやとりを得意げに披露してくれて微笑ましい。
- ・年中となり、年下の子と一緒に生活することや家庭において弟の面倒を見ることを通して、生活面において成長したと感じている。身支度から食事なども一人でできることが増えてきたことに加え弟を手伝うことも出来る様になった。行事については、直前に体調を崩し、万全ではなかったが、運動会でしっかりと演技しているのを見て、成長を感じるとともに、本人の思い出となって良かった。
- ・去年、年少で行事を一通り経験したので、それをふまえて今年度は、一つ一つ

のイベントをより楽しんでいたように思う。年少の時に出来なかったことが今年ではできたりと本人の自信も深まってきたようで、物事に対して「一人でやって見る」「これできるよ」と積極的に挑戦する姿がよく見られるようになった。また、幼稚園での話を聞くとお友達の名前がよく出てくるようになり、お友達との関わりも増えたのかなと嬉しく思っている。

・年少組の時、運動会に参加できなかったため、初めての運動会だった。毎日幼稚園で練習してきたことを家で楽しそうに歌ったり、踊ったりしていた。当日は緊張しながらも一生懸命発表していてとても感動した。

・幼稚園に楽しく通えていることが、何より嬉しい。お友達とたくさん遊んで学ぶことも、たくさんあり、自分で工夫をして遊ぶおもちゃを作ったり、自分で考える力が出来ているなどと思う。家では見せない姿を発表会などで見せてくれ、家族で成長を感じ感動している。

・この一年は、息子にとってもとても多くの経験を積んだ一年となった。良かったこと、困ったこと、楽しかったこと、沢山あるが、親として一番嬉しく思ったことは、幼稚園から帰宅してお友達の名前を言いながら、今日の出来事を話してくれるようになった事だ。年少の頃には、あまり見られなかった事なので、彼なりに少しずつ成長しているのが感じられた。

・途中入園をさせていただいてから、早一年、年少の頃には見えなかった(見えなかった)自己主張(こだわり)も年中になってからは見え始め、様々なルール(園靴・園服・園帽を嫌がる等)親からするとなぜ?と思う事も、しばしばあるが、大らかに迎え入れてくださり、一人の人間としてあるがままを受け入れる大切さを親も園から学ばせて頂いた。「あなたはあなたで素晴らしい。私は私で素晴らしい。生まれて来たことおめでとう。」と子供と歌いながら日々すごしている。くじら組でも多様な体験をさせていただき、年上、年下のお友達との関わり方を沢山学べたようだ。ご先祖様を大切にすること、命の大切さを感じ、考える機会も日々の生活のなかに有り、大変嬉しく思っている。

・年少では出来なかったことが、年中では出来る様になっていて、小さいなりに成長しているなど感じた。

・朝、娘が私と離れるのが嫌で泣いてしまい、先生に協力して頂き助かった。今は泣かないようになって楽しく過ごせているので感謝する。

・まだまだ自分の思いや考えを言葉にするのが難しく、りさ先生がそこをくみとってくださり「こうしたかったんだよね。こうだよ」と代弁してくれることで、子供も先生を信頼し1学期よりも2学期とその思いを強く感じた。「先生に連絡帳渡したから一緒に上に行くね」と言うと「大丈夫、出来るよ」と言って、無事に一人で出来ていた。それ以降も先生に渡してねとお願いするとちゃんと一人で出来る様になっていて、子供を信頼し、任せて見守る事も大切なのだなあと思

った。登園の際も下駄箱でだらだらしていたが、2学期以降は、「お母さんもう行っていいよ」と言うようになり、子供の成長を感じた。

・幼稚園に入園して、もうすぐ二年が経つが、年少組の時は受け身だったが自分から積極的に色々やるようになった様に感じる。家でもお手伝いをしたいと言ってきたり。弟の面倒を見たり、してくれるようになった。劇遊び発表会に向けて毎日練習を頑張っていたが、本番直前に病気にかかってしまい、本番に臨む事が出来なかったが、新入生向けの披露会で何とか発表出来たのが救いだっただ。運動会での「ほがらか森のくぬぎの木」では、年少の頃から憧れていたチョウ役をやることができ、ダンスも立派にこなしていた。

・年中さんになって、できることがどんどん増えて、なんでも自分でやりたい娘は、朝の仕度も全部自分でやるようになった。たまにお弁当を上手に包めず怒っているが、親のお手伝いは少しだけにして自分でやる気持ちを大切にしていけたらいいなと思っている。おしゃべりが大好きで先生に色々なことをお話していると聞いて、「そんなことまでしゃべっちゃったんだ」と恥ずかしくもなるが、先生に沢山お話を聞いてもらえて嬉しいんだろなと思うとこちらも嬉しく思う。

・たんぽぽ組では、男の子のお友達が出来ていただけで喜んでいて、うめ組へ進級し男の子らしさに磨きがかかってきた。こういう時代なので”男らしさ””女らしさ”を押しつけるのではなく、自分で見つけて言ってくれればと思う。自由な園風のなかで、お友達との関わり集団生活に必要なルールを彼なりに学ぶことが多い。「〇〇先生がこう教えてくれた」「今日の△△で××を教えてもらった」と毎日園での様子を話してくれた。今後も先生に教えていただくことをお友達との生活のなかで身に付けていってくれることを期待している。

・入園式でいただいた人形の置物をととても大切にしている。入園以来、度々手を合わせ祈っている姿を見てきた。そして、その内容は決まって本人以外の家族へ向けてである事に息子の心優しさに改めて気付かされた。私が体調を崩した時や、兄が欲しいおもちゃの話をした時など、家族の笑顔を願って祈ってくれている事に感謝をしている。息子なりに幼稚園で教えていただいた事を理解した形だと嬉しく思う。

・恥ずかしがり屋の娘は、いつも私の後ろにくっついていて。いつの頃から夏頃から、先生や友達にあいさつが出来る様になり、大きな声で歌う姿も見ることができた。一緒に遊んで成長してくれる友達や優しく見守ってしてくれる先生たちのおかげだと感じていた。

・進級しお友達との遊びの幅が広がった様に思う。カルタ遊びも、年少の頃より困む人数が増え、対戦できる楽しさを知った。運動量も増えお昼寝のタイミングでも昼寝をしなくても一日過ごす事ができる様になったのは、園生活が充実

しているからだと感じた。

・お手伝いをよくするようになった。牛乳を一人で上手に注いだり、洋服を丁寧にたたむ事が出来る様になった。

〇年小組

・赤ちゃんだった頃は「歩いた、しゃべった」等、成長したというのが分かりやすかったが、幼稚園となると、何々したから、成長となるわけではない。しかし、ふと思い返すともものすごい成長をしていて、よく、驚かされている。この一年、子供と陰悪になったこともあった。自分の悪い所に気付き泣きながら子供に謝った事もあった。泣きながら子供を叱ったこともあった。あつという間で、とても、濃い時間だった。

・今年度1年間は、子供のことで沢山ご迷惑をかけてしまって申し訳ない気持ちでいっぱい。そんな中いつも優しく対応してくださるみちる先生やくじら組の先生方、また、保護者の皆様には感謝の言葉しかない。

・入園前は、初めての集団生活に馴染めるのか不安があったが、先生方のサポートやお友達との関わりのなかで相手の気持ちをくみとったり、ルールを身に付けたりしていくことが少しずつ出来る様になってきた。家庭のなかで、出来ない学びと体験の場として、幼稚園の役割の大きさを親として感じる。

・行事を経験するごとに娘が逞しく成長している姿を見られて、きっと毎日楽しく友達と遊んだり、たまに思うようにいかなくて、悔しい思いをしたり、いろんな感情や体験が経験出来ているんだな感じている。まだまだ不安な点はあるが、これからどのように成長していくのか楽しみだ。

・一番成長を感じたことは、やはり行事に参加する思いや姿勢だ。恥ずかしさ甘えから、やるべきことが出来ずにいたが、運動会で何も出来なかった自分を反省し、どんぐりさんの役はとても頑張ってやり遂げていた。自分で自分を乗り越えたなと実感した。

・夏休み明けから、お友達のグループみたいなものができたのか固定のお友達の名前を言い、今日は休みだったと話してくれるようになった。朝、園に行くときも「今日は何々ちゃん来るかな？」と言い、園に行くことを毎日楽しみにしている。

・家ではまだまだわがままばかりで、自分で出来る事も「お母さんやって」と言い、外を歩くときもすぐに「だっこだっこ」と行ってくる。しかし、発表会では自分の役を楽しそうに演じる姿を見て、親が思うよりずっと成長しているんだなと感ずることができた。また、同じクラスのお友達だけでなく、年中・年長さんに仲良くしていただけるようにようで帰宅してから、嬉しそうに話してくれる。一人っ子の娘にとって、本当に有り難い。園生活のなかで一番印象に残って

いることは、子供がお寺で聞いてきた話をしっかりと理解していたことだ。「怒られる人の頭に鬼の角が出ているんだよ」と。日々、先生方が子供たちに分かりやすくお話をしてくださることに感謝する。

・入園当初から先生にしっかり甘えさせてもらい温かい環境で、お友達にも恵まれて一年で折り紙やお歌、ダンス、うんていと次々と一人で出来ることが増えてきたと思う。くじら組でも上のクラスの子供たちから遊びを一緒にすることで学びが多かったように思う。

・みちる先生をはじめ園職員の方々全体で一人ひとりの子供たちの長所短所と保護者の顔・名前を把握して個々に適切な対応をしてくださっている印象がある。子供も目に見えて成長した一年だった。遊び方も一人遊びから、お友達と遊ぶに変わり、感情を出し身支度、ご飯、トイレ、集団行動…。沢山のことが出来るようになった。

・どんぐり組の時はなかなか母子分離できず。どうなることかと思ったが、入園してから普段の園生活や沢山の園行事を次々こなして成長を感じる。下の子がいて、なかなかお手伝い出来ないが、おもちゃつきに参加させていただき、母子共に良い思い出になった。

・4月の入園からあつという間に残り三ヶ月、登園時には今日遊びたいことを話し、帰りは今日の出来事を話してくれ、毎日楽しい幼稚園の時間を過ごしているのが伝わってくる。親子で参加する行事は、天候に恵まれて、どれも良い思い出になった。

・入園し、保育園生活とはまた異なる環境、過ごし方のため、入園当初は親の方がドキドキしたり心配したり…だったがたんぽぽ組でもくじら組でも皆と仲良く遊んでいる姿に安心したのを覚えている。そして、本人も慣れてきて「早く幼稚園に行きたい」「ママお迎え早い」と泣くこともあり、「〇〇と今日〇〇して遊んだ」と会話の内容が幼稚園の話題が増えてきているのを日々感じ嬉しく思う。

・入園当初不安そうな顔で通っていた娘も今では幼稚園に行きたいと言うようになった。私自身が育児に悩んだり、迷ったりしたとき、励まししたりアドバイスを下さったり、先生方は感謝申し上げます。

・入園前からずっと便秘体質に悩まされていた娘、トイレトレーニングも完了できず、いつ便意を催すか分からない中での集団生活に不安を感じていた。しかし、先生方の温かい励ましや手厚いサポートのお陰で無事にトイレが出来る様になった。この一年で一番の娘の成長だった。

・日頃から子供の成長を感じ、日々驚いているところである。運動会やお遊戯会では普段見ることのできない様子や成長を目にし、幼稚園で様々な事に挑戦している我が子の姿を想像し楽しんでいる。こだわりが強く新しいことに尻込み

することも多い子なので、劇遊び発表会や盆踊りで一所懸命に踊る姿を見ると、先生方の苦労や思いやりが感じられ大変感謝している。以前降園で遊んでいる時、私が知らない年長のお友達が我が子の手を取り一緒に遊んでくれたことがあった。そんな人間関係を築いていけるアソカ幼稚園ですごしていただけることを嬉しく思っている。

・毎日楽しく園で過ごしているようだ。くじら組では年中、年長さんに遊んでもらったり、あやとりや折り紙を教えてもらったりと、とても楽しいようだ。初めの頃は一人で教室に行けず、泣いたりもしていたが、今では笑顔で一人で行くようになり、先生にも自分の意思が伝えられるようになっているようだ。

・初めての子育てのなかで初めての園生活だったが、先生方に沢山声をかけて頂いた。どの先生も娘が得意なこと、好きな事など分かってくださり、温かい保育をして頂き大変有り難く感じる。私達が日々苦労していることなど親身になって考えてくださり、園生活のなかでもサポートして頂いているお陰で少しずつ親子共に成長出来ているのかなと思っている。

・親が息子のことで焦ったり不安がるなかで「大丈夫ですよ」の言葉に何度も救われた。今まで出来ないと思っていたことが、いつの間に出来ていたりしていて自分の子はまだ出来ないと思い込んでセーブしていた事に対し反省をすると共に、息子の成長を感じて私自身を成長させてくれる事も沢山あった。

○どんぐり組

・3年ぶりにどんぐり組を経験出来て、色々進化を感じた。今年は下の子(赤ちゃん)がいる方が多かった。人見知りをしない子だったので、あまり心配をしなかったが1年間どんぐり組を体験して益々幼稚園を好きになったようだ。歌も踊りも姉を見ているので大好きだった。四月から元気に通ってくれるだろうなーと楽しみにしている。

・今ではどんぐりさんで楽しく遊べるようになったが、慣れるまでは時間がかかった様に思う。それでも、兄の送り迎えの際に先生方が声をかけてくださり、少しずつリラックスして過ごせるようになった。毎回「今日は〇〇したよ」「おやつは〇〇だった」と目をキラキラさせて報告してくれる息子。お友達と一緒に遊ぶ楽しさを覚えたようでお友達に向かって「〇〇～」と呼び捨てで呼んでいるのには驚いた。

・子供が楽しそうに通っていて、安心した。子育てのちょっとした愚痴や悩みもよく聞いてくださり有り難い。初めに園見学に行った時、園の雰囲気や園長先生の気さくな感じが良かったので、どんぐりに応募したのだが、他のプレ幼稚園より内容も充実していて、良かった。家ではトイレが出来なかつたり、手を洗わなかつたりするが、幼稚園ではしっかりやっけていて、驚いた事もあった。おむつも

全然外れないので幼稚園でパンツ生活に慣れてくれればと思っている。

・9月からどんぐり組さんへ加わり「幼稚園って楽しいところだ」という認識が芽生えたと思う。お兄ちゃんと一緒に登園する日は、家から幼稚園まで歩いて行く。途中途中休みながら、小さな体でよく歩けるようになった。最初は泣くが、先生の声がけのお陰で納得し成長したと同時に、母親の私も一息付ける時間をいただけ感謝している。

・当初、保育園とどんぐり組の両立で本人が混乱してないか心配していた。毎日のように「明日はどんぐりクラス」と聞いてきたり、アソカ幼稚園の前を通る度に「私のどんぐりクラスだよ」と言うほど毎週どんぐりクラスを楽しみにしている。制作や行事など、幼稚園さながらの体験をさせて頂き、親の私達も大変楽しませていただいた。

・息子はどんぐり組を毎日楽しみにしている。今から毎日幼稚園に行きたいようだ。全て先生方のお陰だと思う。先生方も常に笑顔で接してくださり、兄の送迎の時にも息子を見かけるとわざわざ挨拶するために顔を出して声をかけてくれたり親子共々いつも嬉しく思っている。プレの内容も兄の時より、よくなっていた。運動会は特に良かった。親子で楽しめるプログラムが充実していて、おやつも間に挟んでいて子供も最後まで飽きずに楽しめた。休んだ分も他の曜日に振り返られるのも助かった。また、親の私の育児相談も、先生方に話しを聞いてもらって、気持ちが楽になっていた。

・最初の頃は、息子も私も緊張して馴染めるか不安だったが、先生たちが優しく上手に遊びに誘ってくれたり、寄り添ってくださったりして、すぐに先生にも園にも慣れることが出来た。アソカまつり、盆踊り、運動会、遠足、おもちゃつき、発表会など、イベント盛りだくさんで、とても楽しかった。在園児と同じようにイベントに参加させて頂く機会が多いので、入園後のイメージがしやすいのも良かった。息子は、幼稚園行きたい！と毎週どんぐりクラスを楽しみにしている。この一年を通して少しずつお話が出来る様になり、秋にはオムツも外れ、お友達とも遊べるようになり、グッと成長した中味の濃い一年になったと思っている。

・元々、人見知りや場所見知りが激しい子でどんぐりクラスに通い始めた頃は私から一歩も離れられず、正直通いきれるのか不安だったが、先生方に助けられながら通いつづけることができ、息子の成長を沢山見られた。先生方はびっくりするくらい息子のことをよく見てくれていて先生の言葉で、息子に対して気付かされることも沢山あった。息子にとって母子分離やクラスの子と積極的に遊んだりするのはまだちょっと難しいようだが、残りの時間もどんぐりクラスのなかで楽しく色々な事を学び、親子共々成長して行けたらいいなと思う。

・どんぐり入園前はイヤイヤ期もあり、お友達と仲良く楽しく遊べるだろうかと

不安だったが、不安はよそに先生たちの優しい声がけで、すぐに打ち解け私から離れて楽しそうに遊んでいた。普段どうしても汚れるからとどろんこ遊びや裸足で遊ぶことを避けてきたが、目をキラキラさせて楽しそうに遊んでいる姿を見て、私も嬉しく思った。何よりおっとりしていたあまり走らなかった息子が「走るの 好き！」と活発的になってくれたのは本当に嬉しかった。夏休み明けには母子分離も始まり、その頃から幼稚園のお友達という認識ができ、公園で出会うと遊ぶようになり、とても楽しそうだった。どんぐりに通って本当に良かったと思っている。

・一人ひとりの子どもをよく見ていただき、その子の個性、性格に合った付き合い（接し方）をしてくださるので、子どもがすぐ先生方に懐く。本人は早く幼稚園に入園したいと言っている。

・先生方からその日にあった娘の小さな良かったこと、出来たことなどを報告して頂けるのが嬉しく思う。季節の行事も楽しんで参加出来た。娘が毎週幼稚園で先生方やお友達と会えることを楽しみに喜んで通えたのが良かった。後期の母子分離も慣れるために良かった。